

小豆島航路のニューフェースを追って

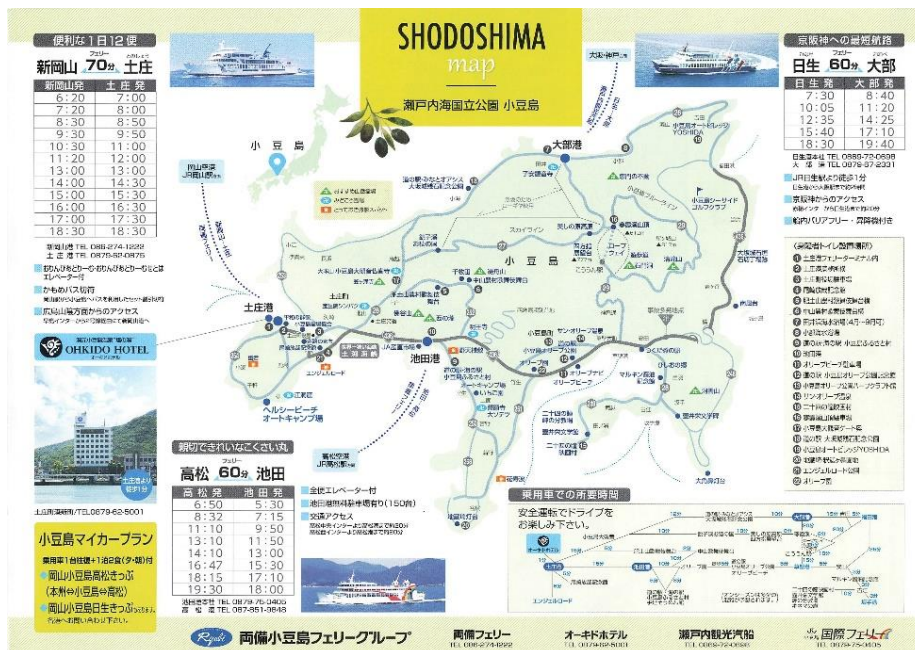
2020.12 池田良穂

小豆島の草壁と高松を結ぶ内海(うちのみ)フェリーの「ブルーライン」が、10月に新造船を投入したものの、資金繰りが悪化して両備グループの傘下に入り、4月からは航路を国際両備フェリーの高松-池田航路と統合するというニュースに接して、小豆島に出かけることにしました。

この統合で小豆島のフェリー運航事業者は、四国フェリーグループと両備グループの2つに集約されることになりました。

小豆島航路には、西端の土庄港から高松、新岡山、豊島・宇野への3航路、北部の大部港から日生への航路、北西部の福田港から姫路への航路、南部中央の池田港から高松への航路、草壁港から高松への航路、南東端の坂出港からは神戸・高松の航路があります。

前述の「ブルーライン」の他、四国フェリーの「第1しょうどしま丸」、「オリーブマリン」が2020年に登場したニューフェースです。



両備グループの航路図です。グループの航路は太い点線で、その他は細い点線で書かれています。



「第5 おれんじ丸」船上にあった四国フェリーグループの航路図。このうち高松~宇野の航路は、すでになくなっています。

神戸～坂手～高松航路



神戸港を朝 8 時に出港するジャンボフェリーで高松に向かいました。船は「りつりん 2」でした。小豆島の坂手に 11 時 20 分に寄港して、12 時 45 分に高松に到着します。



中突堤には「ばしふいっくびいなす」が停泊し、ホテルをはさんで右には「ルミナス神戸 2」、左には「コンチェルト」の姿が見えます。「ルミナス神戸 2」は経営破綻して、「コンチェルト」を運営する神戸クルーザーに引き取られ、レストラン船としての営業を継続することになっています。



「りつりん 2」の僚船「こんぴら 2」です。船首に猫の顔がデザインされ、「にゃんこフェリー」がキャッチフレーズです。

高松～草壁航路



10 月 1 日に就航した「ブルーライン」の姿です。運航は内海(うちのみ)フェリーで、船体塗装は「いるか」のイメージとか。藤原造船の建造で、981 総トン、航海速度 15.5 ノット。この船に、高松から乗船しました。



「ブルーライン」の船内です。



「ブルーライン」のオープンデッキには、座ってくつろげる場所がいっぱいありました。これはいいですね。



「ブルーライン」の最上階には展望テラスが設けられ、360度のパノラマが楽しめます。



内海湾内に旧「ブルーライン」が停泊していました。この船の売却が進まなかったことも内海フェリーの破綻の要因の1つだそうです。



草壁港で下船後、新「ブルーライン」の出港を見送りました。

土庄港



土庄港では、四国フェリーの新造高速旅客船「オリブマリン」との出会いがありました。今年 9 月にツネイシクラフト&ファシリティーズで完成し、土庄と高松を 35 分で結んでいます。姉妹船「スーパーマリン」とそっくりですが、船首のマスコットの絵と、船体上部の線の色が違ってきます。



今年 3 月に就航した新造フェリー「第 1 しょうどしま丸」。



「第2しょうどしま丸」。近々、代替とか。



「しょうどしま丸」。2017年に建造された船です。



岡山航路に就航する「第7しょうどしま丸」。2021年には代替が予定されています。



岡山航路に就航する両備フェリーの「おりんぴあどりーむ」。



今年就航した岡山航路の「おりんぴあどりーむ せと」。



土庄港は、フェリーが頻繁に出入港するビジターポートです。一番右が高松航路、真ん中が豊島・宇野航路、左の画面外に岡山航路の岸壁があります。



高速船桟橋に停泊する高速旅客船群。一番手前は、豊島・宇野航路の「ひかり」。奥の2隻は高松航路船です。

大部港



日生から入港する「フェリーひなせ」。運航する瀬戸内観光汽船も、両備グループに入っています。

福田港



福田港に停泊する「第 3 おりいぶ丸」。姫路港まで 1 時間 40 分の航海で、姫路港とを結んでいます。



航路の途中で、僚船「第 5 おりいぶ丸」と反航します。



途中、家島群島の傍を通過します。石の切り出しで山が削がれており、独特の景観を作り出しています。



姫路港の入口で、坊勢島に行く高速旅客船「ぼうぜ 2」と反航しました。19 総トン型的高速船です。



姫路港内では、家島に向かう高速旅客船「高福ライナー」と出会いました。



姫路港内には、家島諸島への小型 RORO 貨物船がたくさん停泊していました。

付録: 思い出の小豆島

小豆島には忘れられない思い出があります。関西汽船の在来型客船が一斉に引退して、一時、小豆島の内海湾内に係船されていました。サノヤス造船が保管を引き受けて、小豆島に同社の小さな工場があり、その沖だったと記憶しています。関西汽船の船で坂手上陸して、山道を行くと、目の前が突然開けて、関西汽船の船が並んでいました。たぶん、3 ページ目の旧「ブルーライン」が係船されていたあたりかと思いますが今となっては定かではありません。

